

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第104回 ●

■五珠でドボン②

新型コロナウイルスの影響はまだまだ続いているが、名人戦予選は何か開催でき、名人戦だけは催行できそう。今年には初出場者が多く、一気に平均年齢も若返ったので、熱戦が期待できる。ぜひ現場で多くの方々に見ていただきたかったのだが、今年のリモートで楽しんでもらいたい。私もぜひ解説で貢献したいと思っている。

< 峡月 >

さて、前回に引き続き五珠でドボンを考えてみたい。今回は間接の珠型である。前回直接珠型を見てみたが、意外に多くの共通形があった。今回も共通形があるので、珠型に関係なく形を覚えておけば役に立つ。それでは、長星から。

長星の最強防は有名なので、白4の遊星共通で見てもよい。黒5は白6と打たれて困る。黒7なら白8から追い詰めがある。続いて峡月。溪月でも困ったが、結局同じ黒5にした。よく覚えておきたい。

< 長星 >

< 水月 >

次の流星は名人戦でかなり打たれたので、白4の最強防に対し黒5は2か所し

水月ならこの5だろうか。私が長谷川名人に対し打つてみたのだが、白6で必敗形となってしまう。

< 恒星 >

図になってしまおう。それだけよくできる形と思っていただければ良い。

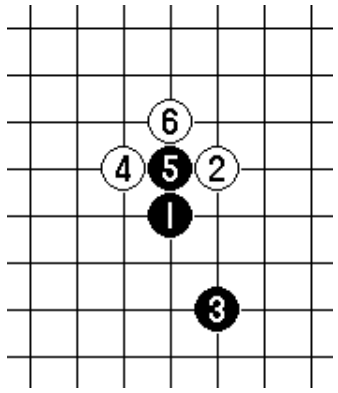
< 雲月 >

雲月は雨月と共通の手もあるが、あえて黒5とした。これは長星で黒5を3と打った形になる。長星の形から想像するとわかりやすい。

< 流星 >

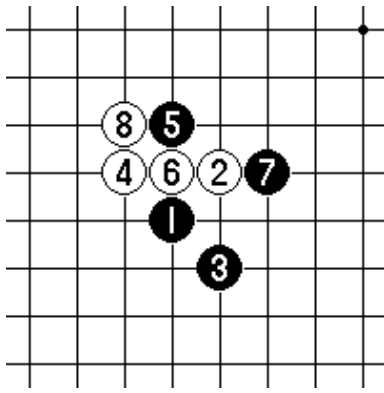
か打てない。黒5も試みられたが、白6で負けてしまおう。

<嵐月>



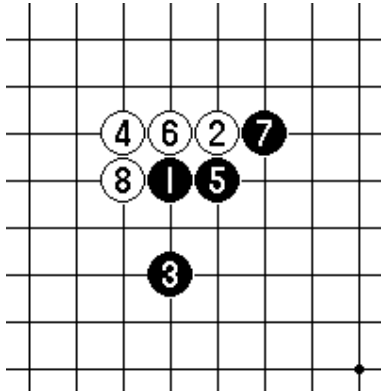
嵐月は桂馬の入門珠型なのだが、知らない人は黒5と打ってくる確率が高い。これは白6で負けとなる。

<浦月>



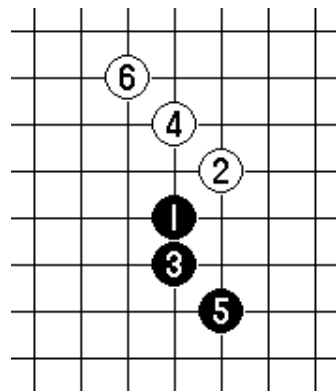
浦月は入門珠型だが、五珠を間違えると負けてしまう。この5も負けの手で、白8まで組まれると黒は防げない。

<明星>



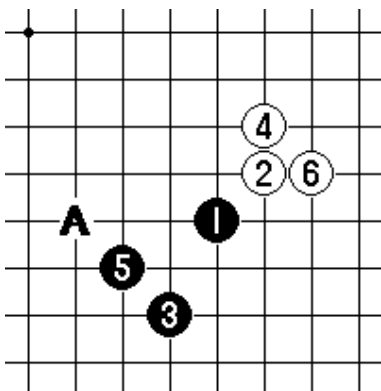
明星で黒5は見たことがないが、それは負けだからである。白8まで白の方が形が良い。黒5を一路右ならここから黒勝ちがある。

<銀月>



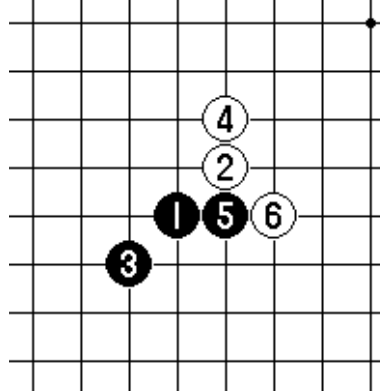
銀月は題数が増えるとも面白い局が多くなる。白6は世界戦でも打たれた順で、ここで黒投了となった。

<名月>



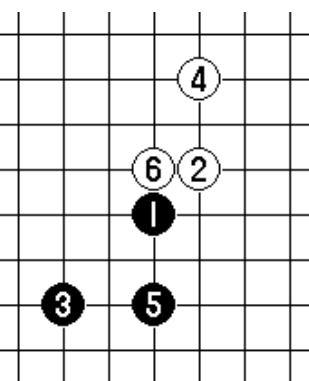
名月は後手策の宝庫であるが、白4の名月特有の防

<斜月>



斜月は丘月共通が一番よく打たれるが、斜月ならではのこの4も題数指定打ちになってからよく打たれるようになった。良さそうに見える黒5は良くない。

<彗星>



ぎに、黒5は知らないと打てないだろう。よくある黒5は白6で困る。黒5をAなら黒勝ちなので、この違いがわからないと打てない。最後の彗星はまだ五珠自体が知られていないが、白4に対し黒5なら白6で困る。ここはある程度記憶が必要だろう。

2回に渡ってドボンの五珠を見てきた。五目並べの意識では負けの五珠を打つてしまふことが多いのがわかるだろう。実戦ではドボンだけは避けるようにしたい。まあ負けて覚えるのも必要なので、気にしすぎることはない。恐れずにどんな打ってみよう！